働く

ユニオンでいこう③

ネット発信 印象一新

ブログが仲介、組織結成

インターネットの動画で労働組合の活動を紹介するサイト「ユニオン・チューブ」。動画には、ユニオン組合員へのインタビューもある。

たとえば、「あなたにとってユニオンとは?」と書いた紙を見せられた若い男性。紙に太い青マジックで「カフェ」と書いた。

「もちろん闘う場所ではあるんですけど、それ以前につながりができるところ。腹を割ってお茶を飲みながら、まあ話そうやと始まれるところが僕にとって魅力ですね」

「ユニオン・チューブ」は米国の動画サイト「ユーチューブ」を参考に、昨年9月に誕生した。ネットで労働運動の情報を提供するレイバーネット日本が中心になった。

提案したのはフリーの映像ディレクターの土屋トカチさん(36)。労働問題をテーマに映像作品を発表してきて、「怖い、暗いといった労組のイメージを変えたい」と思った。ネットカフェで暮らす人も見られるとも考えた。

土屋さん自身、ユニオンに入って解雇撤回交渉をしたことがある。大学を卒業して日雇い労働などを経験し、00年に映像制作会社の社員になった。1年半後、経営難の会社から「フリーになって」と事実上の解雇通告を受けた。

知人にユニオンを紹介され、同時に解雇通告を受けた同僚たちを「一緒に行こう」と誘った。「組合は左翼だろ」「組合費がかかるから嫌だ」などと断られた。土屋さんのイメージも「組合は赤い旗が翻る怖いところ」。でも「このままやめるのは悔しい」とユニオンに加入した。

組合員で飲みにいくと「おじさんにすぐに説教される」のがちょっと嫌だったが、会社とは団体交渉を重ねて和解し、解決金を得た。「多くの人が団結したときの力をまざまざと見せられた」という。

ユニオン・チューブでは現在、約90本の動画が公開されている。土屋さんは「働く場の悲惨な状況は最近よくメディアで報じられるが、彼らが闘って社会を動かしつつあることはあまり伝えられていない。ユニオンの側からそれを発信したい」と話す。

東京都内のタクシー会社運転手、田中昭さん(53)は昨年11月、ネットでユニオン・チューブを見て「自分もこれで訴えよう」と思い立った。

5年前にタクシー運転手になって以来、白いズック靴を履いていたが、会社が2年前に黒靴の着用を義務づけた。田中さんは「着用を求めるなら黒靴代を支給するべきだ」と反論し、白靴を履き続けた。「安易に負担が社員にしわ寄せされるのに歯止めをかけたかった」

幼かった長男を撮るため約10年前に購入したビデオカメラを引っ張り出して、レイバーネット主催の動画制作の講習会に参加。1カ月かけて、会社との交渉の様子を3分間の作品「闘いの自画像」にまとめた。「世界各国の人に見てもらいたい」と、プロの翻訳者に依頼して英語字幕を付けた。

「いい作品をネットで公開すれば何万もの人が見るかもしれない。その可能性があるだけで会社にプレッシャーを与え、闘う武器になるはず」

ネットからユニオンが生まれることもある。

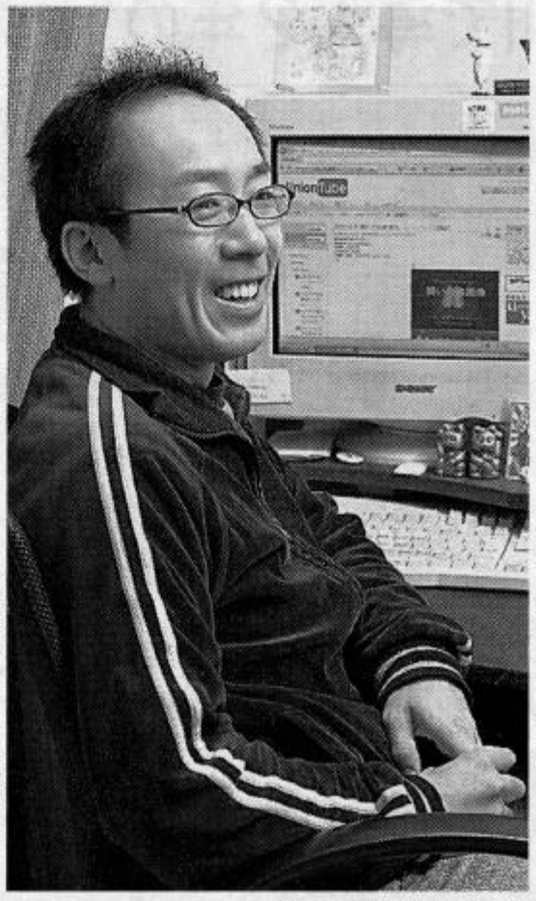
東京のNPO「労働相談センター」に06年春から夏にかけて、紳士服大手コナカのサービス残業を告発する匿名の手紙が相次いで届いた。スタッフの須田光照さん(36)は同年7月、センターのブログ「スタッフ日記」で、「具体的な事例を教えてほしい」と従業員と家族たちに訴えかけた。

しかし当時、ブログの閲覧者は、母体の労組の関係者を中心に多くて1日100人ほど。「ブログで呼びかけて効果があるか自信がなかった」。3カ月後、従業員から初めて連絡がきた。茨城県鹿嶋市の店舗に勤める渡邊輝さん(26)が、ネットカフェで「コナカ、サービス残業」と検索してたどりついたのだった。

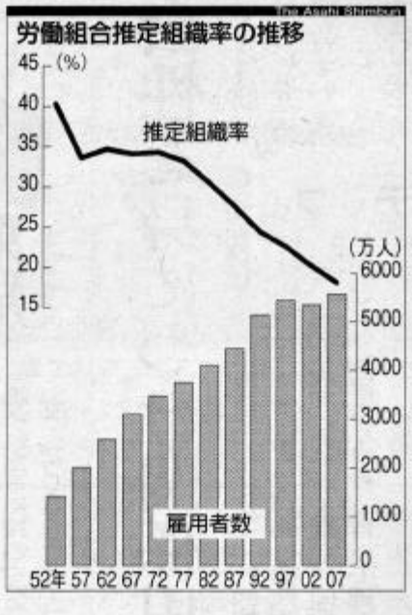
ブログへの従業員の書き込みは徐々に増えていった。昨年2月には、渡邊さんが委員長になって「全国一般東京東部労組コナカ支部」を結成。会社側は6月までに未払い賃金など約13億7千万円を支払った。組合活動を報告するブログの閲覧者は、7月のピークには、1日約5万人に達した。

渡邊さんは言う。「会社と闘う恐怖と孤独に勝てたのは、ブログへの書き込みの背後に自分と同じ考えの人たちがたくさんいるという確信だった」

(山根祐作)



「ユニオン・チューブ」を仕掛けた土屋トカチさん=横浜市港北区で、安藤由華撮影



百名山の知られざる魅力を一挙公開。
全ページ完全新編集
最新版 朝日ビジュアルシリーズ 深田久弥「日本百名山」から
週刊 日本百名山
(1号で2山を紹介)
【全50冊】

あなたの安心⑤

キャッチセールスやアポイントメントセールスなどの現場に潜入し、著書「ついていったら逃さないように。「契約を迫られても即断即決は避け、『時間がない』『金がない』『悩みはない』『興味がない』とナイ」を貫き、できるだけその場から立ち去るべきだ

職場のホ・ン・ネ